

令和7年度 インターネット上の偽・誤情報等への対策技術の開発・実証事業

**偽・誤情報およびデバンキング情報拡散の
シミュレーション技術の開発・実証
成果報告書 簡易版**

2026/3/19

技06_株式会社コンステラセキュリティジャパン

偽・誤情報およびデバンキング情報拡散のシミュレーション技術の開発・実証

アプローチ
する課題
・目指す姿

近年、ソーシャルメディアや生成AIの発展により偽・誤情報が急速に増加している。一方、国内では標準化された仕組みが存在せず、組織を跨いだ知見の共有が十分に行われていないほか、既存の商用プラットフォームでは日本語・偽・誤情報に特化した分析精度や技術更新に課題がある。本開発技術は、偽・誤情報及びデバンキング情報におけるナラティブ分布の可視化や拡散予測を通じて、効果的な発信ノードやネットワーククラスターを特定することにより、限られた人的資源の中でも効率的な対策立案を可能とする。加えて、OpenCTIとの相互運用性を確保し、日本の脅威環境に即した統合的な偽・誤情報対策基盤の構築を目指す。

技術区分

情報流通状況の可視化・分析技術、情報の拡散防止・無効化技術

対象とする
モデル種

文章、画像、動画

実施体制

(下線：技術開発
主体)

(株) コンステラセキュリティジャパン

技術開発の取組・成果

- 脅威情報の共有・管理基盤として欧米で広く利用されているOpenCTIを基盤とし、国際標準に準拠した偽・誤情報分析プラットフォームを開発した
- 複数のプラットフォームに対応したデータ格納基盤を整備し、取得データを脅威情報を記述するための国際標準であるSTIX形式へ自動変換することで、単一プラットフォーム上でのデータの一元管理を可能とした
- 集積されたデータに対して自動で分析結果や評価を付与するエンリッチメント機構を実装し、偽・誤情報の早期検知を支援する機能群を実装した
- 日本語環境におけるSNS上の情報拡散をモデル化し、同モデルを用いて偽・誤情報およびファクトチェック情報の拡散を予測・シミュレーションする機能を実装した。これにより、偽・誤情報の影響度や対応の有効性を予測し、効果的な対策立案およびリソースの最適配分を支援する

社会実装に係る取組・成果

- ステークホルダーへ開発段階ごとにシステム紹介及びヒアリングを実施し、実務的観点から本開発技術の有効性を検証するとともにシステム機能に関する意見を収集した
- 社内アナリストが開発技術を用いて偽・誤情報を分析し、その結果を当社の洞察及び推奨事項とともに月次レポートとして顧客・取引先に配布した。これにより、社会全体における偽・誤情報対策への意識啓発を行うとともに、本開発技術の有用性を示した
- 令和7年富士調査研究会同へ出展し、本開発技術の紹介及び意見交換を行った
- 顧客企業に対して本開発技術を用いたサービスのPoCを実施し、来年度への契約獲得に向けた提案を行った

技術開発及び社会実装にあたっての課題・展望

- 外部基盤の仕様に起因する制約を緩和するため、データ処理方式の改善や処理基盤の強化によりデータ処理性能を緩和するとともに、OpenCTI開発元との協議や外部ダッシュボードの活用、分析結果の表示画面のカスタマイズなどの代替手段を検討し可視化形式の柔軟性を補完する
- 公開情報に基づく分析には、アカウント属性等の推定精度に限界があるため、社会学・心理学的知見や関連情報を統合することで推定精度の向上を図る
- 製品化に向けてスケーラビリティやユーザインターフェース等の非機能要件の定義を進める
- 市場拡大に向けて幅広い組織との連携を強化し、各種組織にとって適切な利用用途の検討を進める
- 実運用を想定したエンドユーザへの教育やサポート体制を確立するとともにユースケースを整理する
- 持続的な運用体制を確保するため運用・保守体制を整備し、顧客からのフィードバックを踏まえ継続的な改善を図る

代表者コメント



株式会社コンステラセキュリティジャパン 代表取締役社長 宮村信男

偽・誤情報及びデバンキング情報の拡散は、安全保障の観点からも極めて重要な課題である。本事業は挑戦的なテーマであったが、想定していた主要機能は概ね計画どおり実現できたと認識している。今後は、処理性能やスケーラビリティ、運用上の安全性を一層高め、より幅広い実環境で活用可能な技術として成長させたい。